



今日からあなたも投稿者。




投稿希望者はこちら!

可児市ふるさと広報大使 塚本明里さん

全国初、市民行政一体型フェイスブック「かにすき」では、市民と市職員が投稿者となって市の魅力を発信しています。可児を愛するあなた。投稿者としてイベントや子育て、おすすめスポットなど、可児の情報をみんなに発信しませんか。

かにすき かにすき 可児 検索

図書館だより

図書館本館 (広見) ☎0111 5120
帷子分館 ☎0111 8530
桜ヶ丘分館 ☎0111 3473

開館時間
本館 火～金 午前10時～午後7時
土日祝 午前10時～午後5時
帷子・桜ヶ丘分館 午前9時～午後5時

休館日 本館・分館共通
毎週月曜日、26日(金)

展示のご案内(本館)
文人の書画展(佐藤直樹さん)
期間 2月25日(木)まで

かにっ子タイム
毎週土曜日午後2時から行います。
○2月20日(土)は、人形劇を行います。
場所 図書館本館
出演 人形劇サークルふくべっこ

図書館ボランティア募集中
図書館本館は、次のボランティアを募集しています。
①絵本の読み聞かせボランティア(かにっ

子タイム、ちびっこかにっ子タイム)
②本の整理、修理
③イベントの手伝い
※ボランティア活動の前に、簡単な説明会をします。活動日や時間などをご相談に応じます。気軽にお問い合わせください。

新しく入った本
「ブルーアウト」 鈴木光司 / 著 (小学館)
「江ノ島西浦写真館」 三上延 / 著 (光文社)
「大村智物語」 馬場錬成 / 著 (中央公論新社)
「多国籍化する日本の学校」 佐久間孝正 / 著 (勤草書房)

一般書
「恐竜は今も生きている」 富田京一 / 著 下田昌克 / 絵 (ポプラ社)

児童書
「ぼくが弟にしたこと」 岩瀬成子 / 作 長谷川集平 / 絵 (理論社)
「なぞなぞでおやしきたんけん」 石津ちひろ / 文 こみねゆら / 絵 (アリス館)

広報番組のお知らせ

ケーブルテレビ可児で

いきいきマイタウン

2/6(土)～12(金)

ようこそ!市長室へ

2/13(土)～19(金)

好きなのはカニダー

2/20(土)～26(金)

簡単!山ごはんレシピ
Kルートで行こう!

2/27(土)～3/4(金)

食品ロスを減らそう

放送時刻 月～金曜日 7:00・12:00・17:00・19:00・21:00
土・日曜日 7:00・12:00・19:00・21:00

FMららで

可児市役所からこんにちは

2/4(木) 11:20～

ようこそ!市長室へ

2/11(祝) 11:20～

可児市ふるさと広報大使塚本明里の「あかりい話」

2/18(木) 11:20～

慢性腎臓病にご用心

2/25(木) 11:20～

可児市ふるさと広報大使塚本明里の「あかりい話」

おはよう可児市役所 月～金曜日 8:00～

発見!可児の魅力 毎週土曜日 10:00～

もう一度確認を!災害時の情報収集

すぐメールかに

あらかじめ登録した携帯電話などのメールアドレスに、災害や気象に関する情報を配信します。そのほか、暮らしに役立つ市政情報も配信しています。

登録方法はコチラ



「防災無線」電話で確認サービス

専用電話番号 ☎0574(6)1548

防災無線で放送された内容を放送後に電話で確認することができます。

※通話料金が必要です。
※防災無線放送後、24時間経過すると消去されます。

人生の成熟期に生きがいを楽しむ



ようこそ!
市長室へ



子育てを終え、定年を迎え、改めて、その後の人生がまだまだ長いことに気がつきます。まだ、3分の1を残す、これからの人生の成熟期をどう過ごすのか。

そんな中、やがては自分もお世話になるかもしれない高齢者の生活支援に、元気なうちに参加して、高齢になっても安心して、住み慣れた地域で暮らし続けられる、そんなまちづくりの一翼を担ってくれる方が増えています。

公的な制度として民生委員・児童委員制度がありますが、それを補うのが「地域福祉協力者」です。現在、市内10地区で150人ほどの方に、身近な人ならではのきめ細やかな見守りや、民生児童委員や自治会と連携しながらの活動

をしていただいています。今後も拡充が必要であり、多くの皆さんの参加を期待しています。

地域の実情に合わせた自主的な活動の代表例としては、高齢者の通院や買い物などの移動支援があります。高台にある団地でも好評で、行政の支援も求められて



地域福祉協力者はこの協力者証を持って活動しています



このステッカーが協力事業所の目印です

いますが、タクシー会社などの民業圧迫との兼ね合いから、法律の規制が厳しく、規制緩和を求めているところですが、

買い物や自宅に届ける配達サービス、ごみ出しや除草などを代行する家事支援、高齢者サロンの運営など、さまざまなボランティア活動が始まっています。そのような取り組みを応援するため、市では、昨年7月から活動経費の一部を助成する「地域支え合い活動助成制度」を開始しました。ぜひ、ご活用ください。また、試行中の「Kマナー」も、その効果を確認したうえで、今後本格稼働に移行するかどうか検討します。

昨年1月からは、市内外の事業所などと協定を結び、業務の際に気づいた異変を市に連絡していただく「可児市地域見守り協力活動」を始めました。新聞販売店、金融機関、農協、水道・電気・ガス会社など55の事業所と市民団体1団体が協力してくれています。

高齢者支援の取り組みは、生きがいづくりや自分の将来に備えるためばかりではありません。ふるさとを魅力的なまちとして、価値ある資産として、次代に引き継いでいくという大切な意義があり、楽しみがあります。地域の皆さんの活動が盛んになり、医療や介護など専門家のサービスと連携した「可児市版地域包括ケアシステム(Kケアシステム)」が構築され、「住みごこち一番・可児」へとつながってまいります。

可児市長 高橋 明里

※1月1日号の記事に誤りがありましたので、お詫言ひして訂正します。
☑土田の白鬚神社 ☑土田の白鬚神社